

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業
分担研究報告書

アトピー性皮膚炎診療ガイドライン：乳児湿疹への沐浴剤の効果に関するクリニカルクエスチョンに対する推奨文の作成

研究分担者 藤澤隆夫 国立病院機構三重病院 院長
研究協力者 長尾みづほ 国立病院機構三重病院臨床研究部 室長

研究要旨

本研究の目的は、アトピー性皮膚炎の診療における意思決定に重要なクリニカルクエスチョン（CQ）の一つとして「乳児の湿疹に沐浴剤は有効か」という課題に対して、PubMed で”eczema”, “baby”, “bath”、医学中央雑誌で「沐浴剤」というキーワードで検索したが、いずれも沐浴剤の使用が湿疹に与える影響を示したものは存在しなかった。

そこで、「沐浴剤の使用により明らかに皮疹を改善するというエビデンスは無い。保湿効果が得られるものもあるため、接触性皮膚炎を起こさなければ悪影響を及ぼすことも少ない。」と結論した。

A. 研究目的

本研究では、アトピー性皮膚炎の診療において意思決定を要する臨床課題の中から「乳児の湿疹に沐浴剤は有効か」という課題（クリニカルクエスチョン：CQ）について、臨床研究論文のシステマティックレビューを行い、推奨文を作成することで、アトピー性皮膚炎診療ガイドラインの作成に資することを目的とした。

B. 研究方法

委員会で設定した課題の中の一つである「乳児の湿疹に沐浴剤は有効か」という課題に対して、PubMed や医学中央雑誌などのデータベースを用いて臨床研究文献を検索したのち、システマティックレビューを行い、エビデンスレベルの評価と統合で求められたエビデンス総体としてのエビデンスの強さと推奨の強さを決定した。

乳児湿疹に対する沐浴剤の効果に関する研究を、2017年1月時点で、海外論文はPubMed

で”eczema”, “baby”, “bath”を、国内論文は医学中央雑誌で「沐浴剤」をキーワードとして、文献を検索した。

C. 研究結果

医学中央雑誌で「沐浴剤」を検索すると17の文献が該当したが、そのうち皮膚炎の改善効果について記載された報告は存在しなかった。PubMed で”eczema”, “baby”, “bath”を検索すると34の文献が該当したがいずれも沐浴剤の使用が湿疹に与える影響を示したものは存在しなかった。また、2015年にCochrane Database Systematic Reviewに掲載されたこれらの臨床研究論文のシステマティックレビューにも指摘されている通り、研究方法、すなわちダニ除去の方法や対象となる患者集団などが多様である。今後は、対象とする患者の背景やダニ抗原対策の方法を統一し長期間観察する臨床研究が望まれる

沐浴剤 S の成分はグアイアズレン、還元ラ

ノリン、セタノール、パラベン、グルコン酸クロルヘキシジン、香料、トコフェロール(ビタミン E)、沐浴剤 B の成分はミネラルオイル、セテス-13、ステアレス-15、セテアリルアルコール、ステアリン酸ソルビタン、イソステアリン酸ソルビタン、天然馬油、グリチルリチン酸 2K、天然ビワ葉エキス、天然モモ葉エキス、オーガニックパルマローザ油、BG、フェノキシエタノール、安息香酸 Na が含まれ、製品によって組成が異なる。

これらの成分には軽度な保湿効果を有するものがあるが、沐浴剤の使用により皮疹が改善するかどうかの明らかなエビデンスは無い。一方、健常な皮膚には界面活性剤としての作用が低いいため使用後に肌を洗い流さなくても炎症を起こすことが少ないとされている。しかし、湿疹部位には保存剤であるパラベンなど刺激性をもつ可能性がある。

以上より、「乳児の湿疹に沐浴剤は有効か」という CQ については、「沐浴剤の使用により明らかに皮疹を改善するというエビデンスは無い。保湿効果が得られるものもあるため、接触性皮膚炎を起こさなければ悪影響を及ぼすことも少ない(推奨度 3(とても弱い推奨) エビデンスレベル D)」とした。

D. 考察

沐浴剤には多くの成分が含まれており、製品によって多様であることから、沐浴剤すべてとしてベビーバスで使用後に洗い流さなくていいとされており、パラベンなどで接触性皮膚炎をおこす可能性もある。

E. 結論

「乳児の湿疹に沐浴剤は有効か」という CQ については、エビデンスはなく、委員会の協議に基づいて、推奨を決定した。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

<論文発表>

1. 立元千帆, 長尾みづほ, 藤澤隆夫. 乳児アトピー性皮膚炎における鶏卵特異的 IgE 抗体価変化の診断的有用性. 日本小児アレルギー学会誌 2017; 31: 692-698.

<学会発表>

1. 藤澤隆夫 アトピー性皮膚炎 治療の勘どころ: ガイドライン 2015 を中心に 京都小児科医会学術講演会 2017.6.3 京都市
2. 藤澤隆夫 シンポジウム「アレルギー疾患におけるバイオマーカー: 小児アトピー性皮膚炎を対象としたバイオマーカー 第 66 回日本アレルギー学会 2017.6.16 東京

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定も含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他